

令和6年度 第1回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：令和6年8月20日（火）午後3時00分から午後4時55分まで

場 所：富谷市役所 3階 305会議室

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員14名

：富谷市9名

：事務局5名

1 開会（司会：企画部長）

2 市長挨拶（若生市長）

皆さま、お疲れ様でございます。本日は、令和6年度第1回富谷市総合計画審議会でございますが、只今、委員の皆さまに委嘱状をお渡しさせていただきました。委員の皆さまそれぞれにお忙しい中、本日は14名の委員の皆さまにご出席をいただいております。この度の委員ご就任と本日のご出席について、心から御礼申し上げたいと思います。

今回の委員15名の皆さまのうち9名の方は、これまでも継続して審議会の委員としてお務めをいただいておりますが、今回新たに6名の皆さまに委員として就任していただいたところでございます。ご承知のとおり、総合計画は富谷市の最上位の計画でありまして、その総合計画のもとに分野毎の様々な計画が紐づいている形でございます。まさに、総合計画は富谷市の未来を方向づけるという意味で総合計画審議会は非常に重要な機関でございます。本日は第1回の審議会でございますが、皆さまから忌憚のない意見をいただければと思っております。

この後、富谷市の現在の状況を含めて市政運営報告をさせていただきますが、振り返りますと、この審議会は平成27年9月2日に第1回目を開催いたしました。富谷市が翌年度の平成28年に市制施行するというタイミングでありましたが、「市になることが目的ではなく、大切なのはどんな市をつくるか」ということで、しっかりと皆さまの声をいただきながら検討し、総合計画を作るということでスタートいたしました。第1回目の審議会から様々な声をいただき、また、市民の皆さまへのアンケートや地区座談会を行いながら検討し、富谷市の市制施行とともにスタートしたのが、現行の総合計画であります。まちづくりの将来像を「住みたくなるまち日本一 100年間ひとが増え続けるまち」とし、全国の自治体が少子高齢化、人口減少社会の中にあっても1960年の国勢調査から人口が増え続ける富谷市において、引き続き100年間人口が増え続けるまちを目指していこう、そのためには住みたくなるまち日本一を目指そうということでスタートいたしました。

後期計画も残すところ2年となりましたが、2年後の10月には富谷市は市制施行から10周年という大きな節目を迎えます。そこからスタートするのが、第2次富谷市総合計画であり、富谷市が新たに取り組んでいくものになりますので、皆さまのご意見をいただきながら、富谷市民が安心して住み続け、夢を持てるような総合計画を作っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 委員紹介

※司会より紹介

4 市政運営報告

※資料1により若生市長が市政運営を説明。

5 会長の選任及び職務代理者の指定

※互選により、会長に風見委員が就く。

※会長の指名により、職務代理者に佐々木委員が就く。

6 諮問

※若生市長より、風見会長に第2次富谷市総合計画等策定について諮問。

7 会長挨拶（風見会長）

改めまして、宮城大学の風見でございます。皆さまに会長としてご推挙いただき、大変重責ではございますが、学識経験者として謹んでお受けしたいと思います。

冒頭、若生市長から市政報告についてご説明をいただきましたが、富谷市は、これだけの躍進を続けている市は他にあるだろうかと言うほど、活発な活躍をされておられます。これはひとえに、市長のリーダーシップのもと、行政当局やここにお集まりの市民の方々など、様々な皆さまの活躍の賜物だと思います。

忘れもしない13年前に東日本大震災がありました。色々な意味で世界中から注目されたわけであります。私は、都市計画が専門ですが、東北地域が立ち上がってきた中で、その復興の先に東北としての希望をどのように打ち立てていくのか、それが一番大きな課題であろうと思っています。先程の市政報告の中でも市長からご紹介がありましたが、先日「しんまち地区のまちづくり」が日本不動産学会の大賞を受賞しました。近年の大賞は、三菱地所が代表の「泉パークタウンのまちづくり」や東京の「ミッドタウン日比谷」など、日本を代表するまちづくりが受賞しております。その中で、なぜ富谷市が受賞できたのかを考えますと、地域資源を活用し、市民の皆さまとの協働によって形づくり、それを持続可能な仕組みにまで発展させているという所が高く評価されたものと思います。様々な地域資源を持つ地域は他にも沢山ありますが、富谷市ではしんまち地区の歴史を復活させ、人々が賑わうまちづくりを行っています。他にも、大亀山森林公園を活用した取組なども行っておりますが、市民の皆さまにとって本当に住みやすく、住みこちが良いまちにならなければならないと考えます。そういう意味では、先程のお話にあった住みこちランキングは非常に意味のある指標であると考えます。

私は、都市計画の専門家として様々なまちづくりに携わってきましたが、東北地域においてただ成長しているだけではなく、量と質ともに充実を進めている富谷市の総合計画策定に携われることを大変光榮に思っております。また、本日は女性の委員の方が半数を超えております。「女性が元気なまちが良いまちである」とは映画監督の宮崎駿氏の言葉であります。これからの協働の時代では、多世代や様々なステークホルダーの方々が自由な議論でもって良いまちに変えていくという決意を持った自治体だけが生き残っていくものと考えます。私は円卓という言葉が好きですが、本日の会場はちょうど円卓状になっております。ぜひ、皆さま円卓を囲みながらフラットな気持ちで議論いただければと思います。

総合計画審議会は、今後10年、100年の計を決める重要な会であります。総合計画は市の最上位の計

画であり、これを決めることが他の計画を決めることにも繋がります。昨年度は都市計画マスタープランを策定しておりますが、今回は、総合計画と併せて地方創生総合戦略、国土利用計画も策定することになりますので、行政においても市の全体像を俯瞰しながらひとつにまとめあげるちょうどいい機会になります。委員の皆さまは各分野の代表でございますので、富谷市が持続可能で幸福な都市となるよう、ぜひ活発なご議論をいただきながら力を合わせていければと思います。本日より、どうぞよろしくお願いいたします。

※ここから、風見会長が議長となり議事が進行された。

8 議事

(1) 第2次富谷市総合計画等の策定について

(風見会長)

それでは、議事の（1）第2次富谷市総合計画等の策定について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、第2次富谷市総合計画等の策定についてご説明いたします。資料2をご覧ください。

策定の概要でございますが、現行の富谷市総合計画の計画期間が令和7年度で終了することから、本市の将来像である「住みたくなるまち日本一 ～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～」の実現に向けて新たなまちづくりの指針となる第2次富谷市総合計画を策定するものです。令和7年度で計画期間が終了する計画といたしましては、②以降の地方創生総合戦略、人口ビジョン、国土利用計画、国土強靱化計画となっております。

続きまして2ページをご覧ください。第2次総合計画の方向性につきましては、現計画の将来像である「住みたくなるまち日本一」を継承し、新たに田園都市構想を盛り込むとともに、子どもにやさしいまちづくりやSDGs等についても引き続き念頭において策定してまいりたいと考えております。

次に総合計画の計画期間でございます。総合計画は基本構想、基本計画および実施計画から構成されております。基本構想は市のまちづくりの将来像を示し、その実現に向けた基本方針などを定めたもので、長期的な視点に立ったまちづくりを進めていく必要性から、計画期間を10年間としております。また、基本計画については基本構想に掲げる市の将来像を実現させるための施策や達成目標を定めたもので、中期的な観点から達成度を検証し計画の見直しをすることを含めて、前期計画5年間、後期計画5年間としております。実施計画につきましては、基本計画で示した目標を達成するために必要な事業を具体的に示すもので、計画期間は3年間とし、毎年ローリング方式で策定してまいりたいと考えております。

4ページをご覧ください。その他の計画の計画期間といたしましては、地方創生総合戦略及び人口ビジョンが5年間、国土利用計画は10年間、国土強靱化計画が5年間となっております。また、今回は総合計画の前期基本計画と第3次地方創生総合戦略について統合し、1つの計画の中で整理することとしたいと考えております。総合計画に総合戦略を包含させることにより、2つの計画の関係性が明確になるとともに、より一貫的な取組を進めることができると考えております。

5ページをご覧ください。総合計画の位置づけについてですが、記載している図のとおり、総合計画及び国土利用計画、総合戦略が市の上位計画に位置づけられており、この計画に即した形で都市計画マスタープランや立地適正化計画、交通戦略などが策定されております。また、その計画等に基づく事業等をその下に記載しております。

6ページをご覧ください。こちらは総合計画の策定にあたっての組織体制図です。庁内組織として、昨年度から風見会長のご協力をいただき、まちづくりの方向性や方針を検討するまちづくり円卓会議を開催しております。また、市長をはじめとする幹部職員で構成されている策定委員会において計画の協議検討を進めてまいります。そして、市からの諮問機関として本審議会がございます。今回は、総合計画基本構想および前期基本計画、総合戦略、国土利用計画についてご意見をいただくこととしております。また、市民参画といたしましては、市民アンケートや市民ワークショップなど、様々な形で市民の皆さまにご参画いただく機会を設けることとしております。

7ページから詳しくご説明させていただきます。まず、市民アンケートにつきましては、18歳以上の市民の方、2,000名を対象にアンケートを実施いたします。発送は9月を予定しておりまして、回答は紙での提出に加えて、オンラインでも受付できるように計画しております。次に、施策分野別団体ヒアリングについては、時期を未定としておりますが、より多くの市民の皆さまのご意見を反映させるため、市内の企業やNPO、ボランティア団体など本市のまちづくりに関わっていただいている団体へのヒアリングを実施する予定としております。

8ページをご覧ください。市民ワークショップにつきましては、市民の皆さまがこれからの富谷市の姿について自由に話し合う機会として今年度の実施を予定しております。具体的な時期や開催形態につきましては、これから計画してまいります。次に市政懇談会については、現計画に基づく市政運営を報告するとともに、第2次総合計画の方向性等について市民の皆さまにご説明し、ご意見をいただく機会として開催いたします。時期は令和6年11月頃を予定しており、会場は今後検討してまいります。

9ページをご覧ください。総合計画シンポジウムについては、今後のまちづくりの方向性や施策を市民の皆さまにお知らせするとともに、幅広い年齢層の方々から幅広くご意見を伺うため、対話型のシンポジウムを開催する予定としております。まちづくりに関する基調講演やパネルディスカッションを通じて市民の皆さまのまちづくりに対する意識を高めていただく機会になればと考えております。時期は令和7年度を予定しております。

次にパブリックコメントにつきましては、基本構想案については令和7年3月、基本計画案については令和7年12月頃に実施する予定としております。

10ページをご覧ください。策定スケジュールについては、抜粋してご説明いたしますが、あくまで現時点のものになりますので、今後前後することがございますことをご了承いただければと思います。まずは、本日8月20日に第1回総合計画審議会を開催させていただいております。続きまして、先程、市民参画のところでご説明させていただきましたが、9月に市民アンケートの発送、10月以降に市民ワークショップ、11月に市政懇談会の開催を予定しております。また、12月には第2回総合計画審議会を予定しておりまして、基本構想案および市民アンケートの結果などについてご説明し、ご審議いただくこととしております。令和7年2月には第3回総合計画審議会において、基本構想案について答申をいただく予定としております。また、3月には基本構想案にかかるパブリックコメントを予定しております。

令和7年度につきましては、7月に第1回総合計画審議会の開催を予定しており、現計画の評価や基本計画骨子案等についてご審議いただくこととしております。6月から7月には市政懇談会及び市民ワークショップの開催を予定しており、9月には議会へ基本構想を上程することとしております。同月には第2回総合計画審議会を開催し基本計画案についてご審議いただき、11月の第3回総合計画審議会では基本計画案について答申をいただく予定としております。12月には基本計画案にかかるパブリックコメントを実施し、令和8年2月に前期基本計画の策定、3月には実施計画を策定する予定としております。

なお、議会への報告については進捗状況に応じて随時行ってまいります。また、地方創生総合戦略及び人口ビジョン、国土利用計画につきましては、総合計画策定と並行して作業を進めてまいりますので、随時審議会においてご報告させていただき、ご審議をお願いすることとなりますので、併せてよろしくお願いいたします。

そして最後に付けさせていただきますが、先程、資料2の7ページでご説明させていただいた市民アンケートに関する資料でございまして、現在の後期基本計画を策定する際に実施した市民アンケートの設問でございます。設問には、後期基本計画の目標指標になっているものも多くございますので、経過を確認するため、基本的には同じ設問項目での実施を考えておりますが、7ページのこれから富谷市が行う施策として必要な施策に関する設問については、現状を踏まえて項目を検討してまいりたいと考えております。こちらのアンケート項目につきましても、ご意見等がございましたら、頂戴できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(風見会長)

ご覧いただきましたとおり、本年度は様々なアンケートやワークショップ等を進め、次年度は全市的な意見をとりまとめたうえで2年間を掛けて総合計画を策定してまいります。また、様々な計画が動いておりますので、庁内でも重層的な議論が行われますし、市議会にも上申がされるということで、まずはこの流れをご理解いただければと思います。

本日は3つの議題がございますので、全体を通してのご意見は後ほど伺おうと思いますが、ここまですでに何かご質問があればお受けしたいのですが、いかがですか。大丈夫ですね。

(2) 富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況について

(風見会長)

それでは、議事の(2) 富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況についてご説明させていただきます。資料3をご覧ください。総合計画では、市の将来像を実現するため4つの基本方針を定めております。後期基本計画では、基本方針の分野ごとに成果目標を設けており、本日はその達成状況についてご説明させていただきます。

※資料3「富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況について」により進捗の報告

(風見会長)

達成状況については、未達成の項目も目につきますが、概ね高い数字の項目となっており、累積目標の項目については、現状の数値以上に伸び率を見ていく必要があらうかと思います。まだ令和7年度まで時間がありますので、その辺りの傾向を見ながら今後の総合計画に反映していくことになろうかと思います。以上、説明につきまして何かご質問があればお受けしたいのですが、いかがでしょうか。とりあえず進めてよろしいでしょうか。後で少しお時間を取ってありますので、その時まで質問があればおまとめいただければと思います。

(3) 第2次富谷市地方創生総合戦略の効果・検証について

(風見会長)

それでは、続きまして議事の(3) 第2次富谷市地方創生総合戦略の効果・検証について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、第2次富谷市地方創生総合戦略の令和5年度の実績についてご説明させていただきます。まず、参考として配布させていただいている第2次富谷市地方創生総合戦略【概要版】をご覧ください。総合計画と地方創生総合戦略の関係性について簡単にご説明させていただきます。概要版の右下の図をご覧ください。富谷市総合計画が一番上にございまして、その中で前期、後期ということで基本計画を5年ごとに区切って作っております。その後期基本計画の計画期間が令和3年度から始まっておりまして、総合計画において地方創生の趣旨を反映した重点的に実施する施策を総合戦略として位置づけております。こちらも後期基本計画と同様に令和3年度からスタートしております。左上に戻りまして、計画期間と管理体制というところをご覧ください。3行目のなお書き以降に記載されておりますが、総合戦略の検証機関として本総合計画審議会が位置付けられており、本日、皆さまからご意見をいただく流れとなっております。概要版の裏面をご覧ください。こちらが総合戦略の4つの基本目標とそれぞれの数値目標、そして、その数値目標につながる指標となる重要業績評価指標、KPIと呼ばれるもの、それから取組方針を概要として記載しております。

続きまして、それぞれの基本目標の令和5年度実績についてご説明をさせていただきますので、資料4をご覧ください。

※資料4「富谷市地方創生総合戦略数値目標及びKPIの実績について」により進捗の報告

(事務局)

以上が、総合戦略の数値目標及びKPIの実績でございます。

続きまして、資料5の地方創生交付金充当事業のKPI実績についてをご覧ください。

地方創生総合戦略の中で重点的に行う事業について、国の交付金を活用することができるようになっており、その交付金を活用したプロジェクトにも、計画の段階で数値目標を設けております。こち

らも総合計画審議会において検証することとさせていただいておりますので、その数値目標と令和5年度の実績について簡単にご説明をさせていただきます。

※資料5「地方創生交付金充当事業のKPI実績について」により進捗の報告

(風見会長)

このKPIについては通信簿のようなもので、厳しい数値になるケースもあるわけですが、これまでの実績についてエビデンスを通じて分析するという時代になっておりますので、温かい目で見てくださいつつも、こういった部分を強化していくべきかという観点で参考にいただければと思います。それを踏まえて、この総合計画審議会では総合計画を今後どのように進めていくべきかという議論をしていくことになります。今回は初回ですので、本格的な議論はこれからになりますが、本日の資料を読み込んでいただきながら、次回に向けてご準備いただければと思います。

全体を通してのご意見を伺う前に、ただ今の総合戦略の実績についてのご質問があればお受けしたいのですが、いかがですか。大丈夫ですね。

それでは、初回でもございますので、委員の皆さまそれぞれのお立場から、この総合計画に対する想いや期待、こういった方向にすべきではないか、といったご意見があれば伺ってまいりたいと思います。席順で一巡してまいりたいと思いますので、佐々木委員からお願いします。

(佐々木委員)

ご説明ありがとうございます。次の10年を考えていくということになりますが、これまでしっかり取り組まれてきたことは確認できました。富谷市では学生の参加にも取り組まれているというご説明がありましたが、例えば「Z世代まちづくり会」のような形で、しっかりと仕組みとして打ち出していくことも一つの方法ではないかと思います。ちょうど先月、このテーマで日経新聞の取材を受けておりまして、北九州市や新潟などではそのような取組が進んでいるとのことでした。東北の自治体ではまだしっかりと打ち出していない状況ですが、富谷市では既に実態として取り組まれているのであれば、次の計画では、Z世代という名前を付けるかは別として、若者が具体的に参加できるような仕組みをセットしたら良いのではないかと思います。

(風見会長)

Z世代に目を向けることは重要ですね。

(高橋(和)委員)

私は、富谷市の障がい福祉に関わらせていただいておりますので、どうしてもそういう所を注目して見てしまいます。全体的には目標を達成している項目が多い中で、どういう項目が目標を達成して、どういう項目が未達成であるかという傾向を掴んでいきながら、また、障害者から健康な方、お子さんからお年寄りまでの市民の皆さまが、住みやすい地域とはどういう地域であると思っていられるのかということを把握しながら、今後の検討に繋げていきたいと思います。

(風見会長)

人生100年と言われる時代ですので、住みやすさ、高齢化対策、ノーマライゼーションは大変重要だと思います。

(阿部委員)

今回初めて審議会に参加しています。くろかわ商工会の支部長を務めております阿部でございます。ずっと富谷に住んでおりまして、消防団にも入っております。資料の中に、地方創生交付金関係の事業として「とみやど」等の取組がありました。他にも目標を達成ができていないもの、達成できていないものがありましたが、このような計画があるのかと率直な感想として感心しました。我々、地元の商工会の立場としては、商工会に参加している皆さまと商売として盛り上げていくことも大事ではないかと思いました。具体的なものは今はないですが、今後色々勉強させていただきながら、役に立てる委員になればと思います。

(風見会長)

総合計画は全体の計画になりますが、本日は経済産業部長もいらっしゃいます。商工関係も含め市に全体として受け止めていただく場でもありますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。

(清野委員)

七十七銀行富谷支店の支店長として3回目の参加になります。先程の実績をお聞きして、色々な項目に銀行としても携わらせていただいていたと思っています。特に、新規事業者支援や荷宿等の事業に関わってきましたが、一方で、まだ未達成の項目にどのように関わっていけるかは今後の課題であると感じました。銀行としては地方創生にいかに貢献するかということを重要視しております。市長の言葉で言う「市民力が高い」富谷市ですが、地域の皆さまにご意見を伺うとまだまだ課題もあると認識しております。銀行として富谷市の課題に対してどのように関われるかが今後のポイントであると考えておりますので、今後も市のパートナーと言われるよう、七十七銀行としても頑張つてまいりますので、ご相談等をいただければと思います。

(風見会長)

連携を表す産官学金という言葉があります。市民力という言葉もありましたが、富谷市は市民起業が伸びております。そういう意味でもスタートアップやベンチャー支援を含めて地方銀行として七十七銀行には期待をしておりますので、よろしくお願いします。

(石井委員)

毎度申し上げておりますが、私は富谷市民ではございません。仙台市在住で、仕事は「まちくる仙台」という仙台市中心部の活性化を行う仕事をしております。仙台市との比較という目で見ると、素晴らしい成果をあげており、非常にまとまりのある自治体であると感じています。私は、平成27年9月2日の第1回総合計画審議会から参加しておりますが、富谷市はまさに有言実行でここまで来ていると感動しております。ただ、先程の住みこちランキングで5年連続東北1位とありましたが、よく市長がお話されているのは「住みたくなるまち日本一」ですので、東北1位と日本一ではまだまだ差がある

と思います。第1期の総合計画の10年間で東北1位になっているのであれば、次はぜひ日本一を目指す姿勢であるべきだと思います。本日の資料2の2ページに総合計画の方向性があり、第1期の総合計画の将来像である「住みたくなるまち日本一」に加えて子どもにやさしいまちづくり等とありますが、ここに市長のリーダーシップの想いが入っていないと推進力に欠けることとなりますので、ぜひ次の第2回総合計画審議会では市長の想いをお聞かせいただきたいと思います。

(風見会長)

総合計画の方向性の話がありましたが、富谷市には成田地区にガーデンシティがあるように田園都市にふさわしい条件を備えています。その意味で、前期基本計画の最後に政策として田園都市構想を示しておりますのが、次期総合計画ではまさにその部分を実現できればという想いが市長にもおありだと思います。この点については、市からも情報提供いただける機会があればと思います。田園都市は私の専門分野でもあります。SDGsや住みやすいまちとは何かを徹底的に追及すること、あるいは子どもたちの未来が方向性として示されるだろうと思いますが、この総合計画の方向性につきましても活発にご意見をいただければと思います。

(高橋(知)委員)

今、子どもというキーワードが出てきましたが、富谷市に住んでいる子どもの数は増え続けている一方で、開発をし続けていくことが出来なくなれば減少していく可能性もあると思います。子ども達を見ていると、経済的にも安定しており、地域の方々も教育に対して非常に熱心であり、学力も高いのですが、そうすると高校、大学、その後は富谷市から出ていく可能性が非常に高くなります。子ども達がここで更に能力を発揮し続けるようにすることが、富谷市にとってもとても大事なことになると思います。実績のデータを見た時に、開発をする、あるいは起業するといった項目が未達成でありました。それを考えた時に、子ども達がここで起業をして力を振るって、世界に発信していくということも、IT関係等で可能性が高くなっていると思いますので、学校としても教育の関係者として考え方を広げていく必要があると、改めて感じたところです。

(風見会長)

民間企業の方かと思う位、素晴らしいアグレッシブなお考えをお持ちであると感じました。今、起業家教育は大学から高校、更に中学校位まで降りてきています。起業するというよりも、アントレプレナーシップと言いますが、起業家精神を持つことがとても重要だと思いますので、その意味でこの総合計画の中でも提言をいただいて活用させていただければと思います。

(菅原委員)

私は、総合計画のこれからの10年間を社会福祉協議会の立場で思いを巡らせていました。社会福祉協議会は普段の暮らしの幸せを市民の皆さまがどのように感じて毎日を過ごしていけるのかという所を、日々考えて仕事をしている組織だと思っています。富谷市には、すごく経済的に恵まれた環境にある方たちの他にも、そうではない方たち、障がいをお持ちの方たち、親類縁者が傍におらず孤立されていて行政や地域包括支援センターの方に見守られて暮らしている方々なども多くいらっしゃることも事実だと思います。そのような方たちにも、住みたくなるまちであると思っていただき、希

望をもって普段の暮らしの幸せを感じてもらえるようなまちになってほしいと思いながら聞いておりました。社会福祉協議会としても、市とともに手を携えて進めていければと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

(風見会長)

やはり、優しいまちというか、愛を感じるまちにしていかなければ生き残れないと思います。怪我をしたりすると、まちは残酷なまでに優しくなくなることもあります。弱者という言葉はあまり好きではないですが、皆さん人間はいつか必ず弱くなりますので、当たり前のようにみんなが優しいことが基準となるまちづくりをぜひ進めたいと思います。この辺りはぜひ菅原委員に強く提言いただいて、行政のほうでも受け止めていただければと思います。

(富田委員)

市長から、平成27年から総合計画審議会が始まったとお聞きしましたが、私も平成27年4月に仙台北税務署に起業届を出して、今フリーランスで自宅を事務所として仕事しています。業務は、WEBの作成と運営、デジタル版下の作成などで、代表と言いながら実務まで行っています。総合計画と一緒に10年を歩んできたんだと思って少し感慨深くなりましたが、次の10年に反映できるよう上手く意見を出せるようにしていきたいと思います。自分の事業の他に趣味の園芸を生かして、NP0のSCRさんと一緒に休耕地に花を植えたりといった緑地化の活動も行っています。今回の計画の方向性にも田園都市という言葉が入っておりますので、その点でも何か役立つ意見を出していけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

(風見会長)

実際に活動されている方が、しっかり円卓の中に入って議論していただくことが良いと思いますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。

(村上委員)

審議会には4回目の参加になります。総合計画をずっと進めてきて、目標にかなり近づいてきていると感じました。多種多様な計画がある中で、市長の想いと行政の皆さんの力と、そして市民の皆さんとの協働によってここまで進めることができていると思います。ただ、達成状況の中で弱いと感じたのは農林関係になります。住みたくなるまちという意味の中に自然環境も含まれているのではと思います。私は、自然環境を維持し、市民の皆さんにも実感として感じてもらえるような場を作っていく活動を行っています。住み続けたくなるまちとして、子どもから年齢層が高くなっても親しめる自然環境は富谷市にとっても大事だと考えます。私自身は、富谷市は自然環境と都市がマッチングしてとても良い環境で住み続けたいと感じていますが、市民の皆さんがどのように感じているのか市民アンケートの結果を見るのが楽しみに感じています。

また、富谷市に30年住んでいます、最近初めて市民バスに乗りました。富谷市役所前からの最終バスで、乗り場に一気に3台位停まり困っていたところ、普段使用している方に行き先から降り場まで親切に教わり、市民の方の優しさを感じました。また、普段は車で10分位のところを40分位掛かったのですが、それもかえって楽しく感じました。こういう住んでいても分からなかった新しい発見が

まだまだあるということ、実感したことを伝えていきたいと思っています。総合計画の中でも、下のほうから上げていくような活動ができればと思っています。

(風見会長)

村上委員からあったように、田園都市の魅力は自然と都市の魅力を良いとこ取りするということですが、意外と地元の方がその自然の豊かさに気づいていないとあつという間に無くなってしまいます。その意味で、大亀山森林公園で活動されていらっしゃるんですが、富谷市の魅力をどんどん開拓することを総合計画の中でも応援していけるような仕組みを作ればと思いますので、よろしくお願いします。

(宮崎委員)

富谷市PTA連合会の会長で、明石台小学校のPTA会長を務めております宮崎と申します。今回は、総合計画審議会の委員として大変貴重な経験をさせていただき感じております。私自身、子育てをしていて、富谷市は子どもにやさしいまちであると感じています。児童クラブが学校敷地内にあったり、給食費無償化、医療費も掛からないということで、富谷市に住んでいて良かったと思っています。本日、色々と説明を聞かせていただきましたが、富谷市に住んでいながら、富谷市のことについてまだ知らないことが沢山あると感じたところでした。審議会に参加することを機に勉強させていただいて、富谷市の良さを周りの皆さんにも伝え、良いまちづくりができるように、そして子ども達が明るい未来を見れるようなまちづくりのきっかけになるように、少しでも力になればと思っています。

(風見会長)

PTAは、保護者の方と先生を繋いでいて、その意味で相当のネットワークがあると思います。ぜひ、ご家庭でも総合計画について議論してもらいたいと思います。多層状態で議論していかないとまったくないので、ぜひ勉強しながらご発言いただければと思います。

(小松委員)

私は古株で、初回の審議会から参加していますが、一人の農業人として思うところをお話します。今、田んぼが荒れていたり、高齢化が進んで農業がやりづらくなってきていますが、一方で、富谷市で農業をやりたい、米や野菜を作りたい、果樹を作りたいという人が何人か私のところにも連絡が来たりします。1 農業人としては、住みたくなるまち日本一というよりも、「何か作りたくなるまち」に変えていければと考えています。今は、猛暑で米や野菜が作りにくくなったり、猪や鹿、熊による鳥獣被害も多くなっています。色々と悩みもある中で、それなりに自分たちで努力しながら、地元の皆さまに米や野菜を届ける活動をしていきたいと考えています。

(風見会長)

「何か作りたくなるまち」という言葉はキャッチフレーズとして良いと思いました。農業として農作物を作るだけでなく、皆で作って食べるという地産地消のまちになるべきだと思います。ちょうど、富谷市では市民農園の事業をテコ入れする予定でありますので、自発的にやってみたい人が生まれてきて、市ではそれを受け取って展開していただくことが理想だと思いますので、ぜひ積極的にご発言

いただければと思います。

(増田委員)

教育委員をさせていただいております増田です。先程、石井委員が今度は日本一を目指さなくてはとおっしゃっていましたが、私は日本一は決して夢物語ではない、実現可能だと感じておりますし、そういう気持ちでやっていかなければならないと思っています。なぜ、日本一は夢物語ではないと思うかという、私は富谷ユネスコ協会というものをやっているのですが、そこで学校に何らかの理由で通えないお子さんのお母さん達の語り合いを月に1回行っております。始めて2年位になりますが、初めは泣いてばかりいたお母さん達が互いに励まし合い、寄り添い合っているうちに、どんどん元気になってどこよりも笑顔が溢れる会になり、はじめは家から出てこれないと言っていたお子さん達も最近では一緒に参加するようになっていきます。その子ども達を相手にしてくれているのは学生の青年部になるのですが、大人が思い合う様子や子ども達の可能性を見た学生が、本当は卒業後に他県に出るつもりだったけれども、富谷に残る選択をする、富谷に残る形で就活をする学生が出てきたりしています。中学生の留学生からは本当に真剣に中国に帰らず富谷に住みたいと言われたりもしています。それは、先程風見会長も愛が大切とおっしゃられたように、大人の愛が伝わったことによるものだと考えています。富谷市は本当に市民力が高いまちだと思いますが、そこに更に大人の愛であるとか、元気に生き生きここで暮らしている姿が理屈抜きに子ども達や若者達に伝わっていき富谷市に住みたいと思う、あるいは富谷市に引っ越して来た方に、これまでよりも何か楽しく感じてしまう空気感が伝わっていくと更に富谷に人が集まってくるのではないかと考えております。この会が始まる前に風見会長が、人生限りがあるんだからやりたいことは何でもやらなきゃとおっしゃっていましたが、この会の会長がそういう前向きな方であるということは希望だなと嬉しい気持ちになったところです。

(風見会長)

SDGsの一番のテーマは、誰も取り残さないですので、それが本当に出来ているのかがこれから問われてくると思います。住民の方がどういう想いでいるのかというのは、他の方に伝わるとしますので、ぜひ愛のあるまちづくりを行いたいですね。人生やりたいことをやらなければと私も思います。共感いただきありがとうございます。

(新藤委員)

富谷市49行政区のまとめ役として、この度行政区長会の会長に就任しました。私は、日吉台二丁目町内会長なんですが、650世帯のマンモス町内会の会長を務めて16年目になります。役員も全て変わっていません。部長さんたちも全員私についてきてそういう状態で運営をしています。今回、行政区長会の会長になりまして、まず、我々各町内会長さんの悩み事やこういうことが出来ないといったことをお互いに持ち寄って話し合おうということで情報交換会を行うことにしました。その中で、出来ないということではなく、どうやったら出来るのか、良い方法がないかについて皆さんと知恵を出し合うという場を設けたいと思いました。もちろんその後に懇親会も行います。ある程度、組織立てて富谷市に投げかけるものは投げかける、あるいは行政区、町内会で出来ることは自分たちでやろうと。そういうお互いのコンセンサスを図って、より良い計画づくりや、住みたくなるまち日本一という目

的のためにも町内会は非常に大事だと思っております。市とも密接な関係にありますので、町内会長がしっかりと運営していかないと、なかなか計画の目標値は達成できないだろうと思います。9月の行政区長会では、皆で知恵を出し合って、より良い方向性を考えて行こうと強く申し上げたいと思っています。

もう1点ですが、実は私はプロの川柳作家で、富谷市の小学校、中学校でも十数年、川柳を教えています。小学6年生や日吉台中学校の生徒の他、富谷市社会福祉協議会の人生経験豊かな19人の大人の生徒に対して毎月の教室で教えています。そういうものでお互いの交流を図ることが、これからは大事だと思います。特に小学生、中学生はとても敏感なので、お互いの交流が図れる場を我々が作っていかないといけないと思います。私は、一人の川柳作家として指導を続けていきたいと思っておりますし、この審議会では行政区長会の会長としてご意見、ご提案をしていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

(風見会長)

町内会も大事な組織でありながら、後継者を作っていくことが大変だろうと思います。私はコミュニティのまちづくりが専門であります。新藤委員のご発言のとおり、元気なまちを作るには自発的に出来ることを考えることだと思います。行政も町内会の意見をしっかりと受け止めていただきたいと思います。富谷市では市長のもとに円卓会議を作られていますので、トップの方でもしっかり施策を考える。総合計画においては、市民の中から上がってくる様々な構成要素を基に検討することになると思います。そういう意味で、既に行政に陳情するという時代は終わっており、今は行政とともに協働、共創していく時代になっておりますので、ぜひ活発なご意見をいただければと思います。

それでは、一巡させていただきましたが、もう一声ある方はいらっしゃいますか。大丈夫ですか。

それでは、私から最後まとめとして。それぞれのお立場から大変意欲的かつ素晴らしいご意見をいただきありがとうございます。皆さまの富谷市に対する想いというか愛というか、そういうものを感じました。やはり地域愛というものがないと、逆に地域愛さえあればまちは生き残れると思います。本当に我々のまちが優しくて愛があるのかということは、とてもプリミティブな、基本的なようでもあり、ゴールでもあると思います。そういう意味で、皆さまからとても愛を感じる素晴らしいご意見をいただき、ありがとうございます。

私からは、田園都市についてはいずれまたお話ししたいと思います。とても大事なものはSDGsの中で、17番目にパートナーシップという言葉があります。今、パートナーシップの時代が来ておまして、行政や企業、市民、色々な役割がありますが、立場を超えて一緒に手を繋いでいくということがパートナーシップになります。本当に市民力に溢れるこの富谷市ですけれども、総合計画はそれを出来るだけ具体的な政策に結びつけるととても良いチャンスであります。そういう意味で、市の各部長は審議会の意見を一つ残らずしっかりと受け止めていただくという覚悟で臨んでいただいていると思いますので、よろしくお願いします。ぜひ、委員の皆さまにはここで忌憚のない意見やこのようなことが出来るのではという前向きな意見をいただければと思います。実現するのは5年先か10年先になるか分かりませんが、総合計画は長期に渡るものなので、ぜひクリエイティブな意見を皆さまにはご発言いただきたいと思います。

それでは、せっかく円卓ですので、行政側からということで武内副市長からもまとめの言葉を願います。

(武内副市長)

委員の皆さま、キックオフの会議でしたけれども、各委員から本当に示唆に富んだお話をいただきまして、ありがとうございます。

まず、1つ事務局が説明した成果指標、KPIですが、これは令和5年度の実績値としての今、達成しているか、未達成なのかということです。期限は令和7年度末でございますので、まだまだ私ども諦めておりません。あと1年7カ月ありますので、一つの項目でも多く達成に持っていくという覚悟でやっていきたいと思います。

各委員から本当に示唆に富んだお話をいただいて参考になりました。例えば、自然の豊かさという所で言いますと、私も仙台市から通勤しておりますが、明石南の坂を上がって明石台、成田と来ると全然雰囲気が変わって、緑豊かで空気感が違う、本当に自然に恵まれた地域であると毎日実感しているところであります。

また、市民力のお話もいただきました。富谷市は本当に市民力が高いと、市長が常々申しておりますけれども、本当の話でありまして、富谷塾にしても200人を超える人がいたり、村上委員のSCR様、富谷ユネスコ協会様のように民間の団体が本当に活発に活動していただいております。いわば、内なる力が働いているということと、外からの力。先程、風見会長からパートナーシップというお話がありましたが、企業様の産と、宮城県を含めての官、学では宮城大学様に様々ご協力いただいております。金は清野委員の七十七銀行様とは連携協定を結んでいるということで、まさに産官学金の力をお借りして外の力も取り込んでいます。内なる力と外からの力、2つの力がこのダイナミックな富谷市の市政を展開できる大きな原動力であると思っています。財政規模で言いますと180億円位の自治体ですが、皆さまからお褒めをいただくように財政規模以上の様々な新たな施策を実現出来ている要因は、内なる力と外の力をいただいていることによるものと考えております。

また、先程いただいたご意見に、富谷市の子ども達が本当に生き生きと成長してくれても、それが大人になったときに市から出て行ってしまうというものがありました。住みたくなるまち日本一は当然のこと、100年間ひとが増え続けるまちになるためには、富谷市に住み続けたいという環境を作っていかなければならないと思います。そのためには、先程、愛のあるまちづくりという話がございましたが、シビックプライドや、子ども達に市を誇りに思ってもらふこと、あるいは良質な就業先をつくり富谷市に住み続けて、勤め続けられる場所を作ることが必要だと思います。今、大衡村に大規模な半導体工場の立地が決まっておりますが、富谷市でも200ヘクタールという国内での最大規模の成田二期北工業団地を造成予定であり、大衡村に大規模な半導体工場の立地によって関連する企業などが次々と立地するのではないかと期待を持っています。そのような形で富谷市の子ども達が、大人になっても就労し、住み続けていただけるような環境づくり、こういったものがやはり大事だと考えております。

それから、総合計画に書いてあることですが、私も長年県庁の職員をしており沢山の計画づくりに携わってまいりましたが、ともすると計画というものは絵に描いた餅になりがちです。私も富谷市の人間になって、この富谷市の総合計画を読みましたが、本当に書いてあることが次々に実現出来ていると感じています。これも先程と繰り返しになりますが、内なる力と外からの力を借りて、総合計画に書いてあることが次々と実現出来ている原動力になっていると思っていますので、引き続き市民力と産官学金との連携をより一層進めていかなければならないという感想を持ったところで

ございます。皆さまからのご意見を伺っての、私の率直な感想でございました。

(風見会長)

ありがとうございました。行政のほうでもしっかりと取り組んでいただけたと思います。市長、副市長を中心に、庁内調整も沢山出てくるとは思いますが、よろしくお願いいたします。

最後に、私から一言だけ申し上げますと、思いが実現できるまちが大事だと思います。そういった意味では、行政のほうでもしっかりと色々なアイデアを実現できるように頑張っていただきたいと思っています。また、我々審議委員はそれぞれの立場を代表して来ております。総合計画は100年先を目指して次の10年を考えることになりますので、一丸となって取り組んでいければと思います。2年間というお付き合いになりますが、オール富谷でこの審議会を有効に機能させていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、長時間に渡りまして活発なご議論ありがとうございました。

9 その他

※事務局より諸連絡

10 閉会